

# Conference Report 学会だより

## 第7回 Ka バンド利用衛星会議報告

通信総合研究所 門脇直人

第7回 Ka バンド利用衛星会議 (7th Ka-Band Utilization Conference) は、2001年9月26日から28日の3日間、イタリア北部のサンタ・マルゲリータ・リグレにて開催された。サンタ・マルゲリータ・リグレは、イタリアン・リヴィエラと呼ばれる北イタリア西部の海岸のリゾート地であり、温暖な気候と豊富な魚介類に恵まれた瀟洒な街である。ジェノアから約30キロの距離にあるが、都会の喧騒は微塵も感じられない落ち着いた雰囲気漂っている。日本では知名度は高くないが、近くにはポルトフィーノ、チンクエ・テッレなどの風光明媚な観光地があり、この地域の観光の拠点でもある。

Ka バンド利用衛星会議は、NASA における ACTS の打上げ成功によりブームとなった Ka バンドを利用した衛星通信システムの技術研究開発や規制、市場に関する情報交換といった開発・利用促進を目的とした国際会議であり、1995年に第1回がローマで開催された。

例年150名程の参加者があるが、今年に限っては100名程度と参加者数が激減してしまった。その大きな理由は、本年9月11日、米国を襲った同時多発テロ事件である。その影響により、米国の民間企業からの参加予定者のほとんどが会社の方針により海外渡航を中止した。また NASA から参加者が予定者の半分に制限された。我が国からの参加者も同様に通信総合研究所(CRL)以外の機関からは JSAT のほか欧州に拠点のある NASDA のみと言う状況であった。



図1 開会を告げる F. Valdoni 氏

さて、会議の内容に触れよう。セッションは、新システム提案及びシステム開発の進捗状況、実験結果報告、伝搬と減衰補償、先端のコンポーネント及びアンテナ技術、アーキテクチャ及びプロトコル、地球局技術、市場経済動向の7つのカテゴリーに分類される。技術的な報告としては、米国のTRWがAstrolinkの開発に関連して、衛星搭載機器の全般について8件発表したことが目立っていた。しかし、発表者は実際に来場しておらず、VTRによるプレゼンテーションであった。Alenia Spazioが開発中のEuroSkyWayに関しても、欧州の大学機関なども参加した総合的な開発が進められており、搭載機器、ネットワーク設計、地球局開発などが精力的に行われていることが伺い知れる。その他の話題としては、昨年5月末をもって運用を停止したNASA/ACTSが大学のコンソーシアムによって教育目的で再利用されること、衛星による広帯域インターネットに関する技術開発が精力的に行われていることなどが目立っていた。発表者と発表の概要は<http://kaconf.grc.nasa.gov/>に掲載されているので参照頂きたい。

今回のトピックスは、マルコーニの大西洋横断無線実験成功から100周年を記念したセレモニーが行われたことである。会場となったホテル・ミラマーレは、かつてマルコーニが初期の実験を重ねるために滞在した場所でもあった。セレモニーでは、ユーテルサットによりニューファンドランド島(カナダ)で開催中のワイヤレス・ kongress 2001 会場とライブ中継で接続し、双方から記念のメッセージが交換された。本会議会場にはマルコーニ氏のお嬢様エレトラ女史とお孫さんグリエルモ氏が来場しスピーチをされ、またカナダ側からはカナダ出身の宇宙飛行士マーク・ガーノウ氏の記念講演と著名な作家アーサーCクラーク氏の祝福のメッセージビデオが中継された。



図2 大西洋横断無線実験 100周年セレモニーでスピーチするElettra 女史

Ka バンド利用衛星会議は例年和やかな雰囲気のもと開催されているが、今回は米国の同時多発テロ事件の影響を直接的に受け、緊迫感が漂う一方で、マルコーニの大西洋横断無線実験成功 100 周年を記念するという記憶に残る会議となった。

次回は来年 9 月 25 日から 27 日にイタリア北部マジョーレ湖のほとり、バベーノ・ストレーサにて開催の予定である。平和的な雰囲気の下、多数の参加者を得て活気ある会議とならんことを心から祈る次第である。

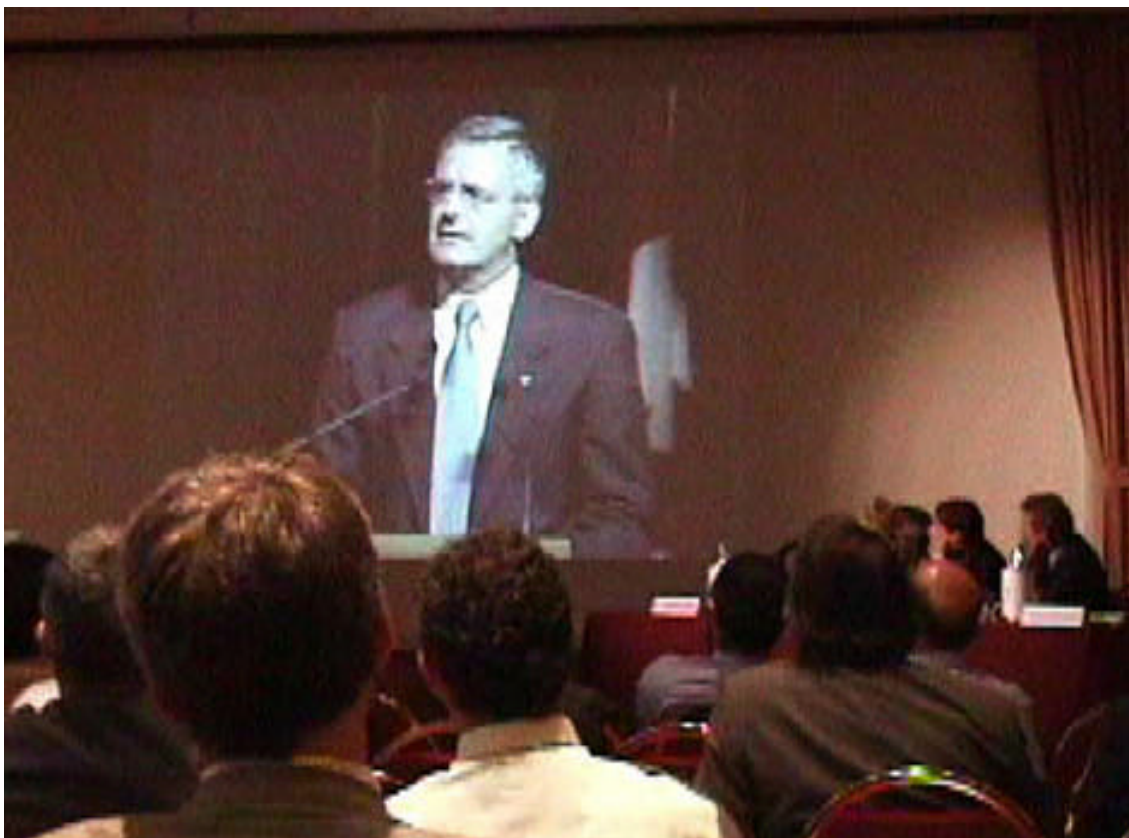


図 3 大西洋横断無線実験 100 周年セレモニーでスピーチするガーノウ宇宙飛行士のカナダからの中継映像